

## 研修報告書No. 1 3

研修先 高岡郡佐川町立高北国民健康保険病院  
四万十町立大正診療所  
所 属 聖マリアンナ医科大学病院 研修医

高知地域研修を終えて

今回、私は1ヶ月間、高知県佐川町にある高北病院と、四万十町の大正診療所で地域研修をさせていただいた。私は今まで2年弱、大学病院で研修をしていたため、市中病院での研修経験がなかった。特に地域医療に特化した病院での研修を行いたく、今回高知県での研修を希望させていただいた。高北病院では内科病棟も受け持つことができたが、一番に思ったのは患者年齢層が80～90代と非常に高く、中には100歳以上の方もおられたということだ。入院理由としては肺炎やUTIなどの感染症、脳梗塞、腸閉塞など多岐にわたるが、各科の細分化がないため、全ての内科管理を行う必要がある。幅広い知識を必要とされるため、非常に難しくもあるが勉強になった。また、私が今まで研修していた大学病院はいわゆる急性期病院であるため、治療が終わり、自宅退院が難しい場合は療養病院に転院になることが多く、その後、患者さんがどのような経過をたどっていったか、わからないことが多かった。今回の病院では長期療養の役割も担っているため、退院が決定するまでの経過もあわせてみることができ、非常に有意義であった。この経過を見ていて学んだことは、先にも記述したように、地域柄非常に高齢化が進んでおり、自宅退院をした場合、老老介護になるという現実であった。患者さんだけでなく家族もご高齢であり、長期にわたり介護を行う必要が発生するため、様々な面で負担が大きい。これから先、高齢化社会はますます進んでいくことが予想され、ニュースでも老老介護の現実が頻繁に取りざたされている。少しでも負担を軽減するべく積極的に取り入れられているのが、デイサービスなどの介護施設である。このような介護施設にも頻繁に見学に参加させていただいたが、通所されている方々と交流してみて感じたことは、みなさんが知り合いであり仲が良いということであった。首都圏では、近所の方々との交流も減少傾向であり、マンションでは隣の住民も知らないということをよく耳にする。そのため、独居の方で急変しても長時間気づかれないことが多い。しかし佐川の方々のように、地域交流が活発であれば長期間気づかれないということは大きく軽減できるだろう。いかに地域交流が重要かということを知った。そして医師-患者間の信頼性を高めることによりさらに、日頃の小さな異変も見逃さない丁寧な診療が行えているのだと思った。首都圏で地域交流を活発にするのは難しいが、日々の診療で、患者さんとの信頼関係をより強く築けるよう、今後より一層努力していこうと改めて思った。

1ヶ月と非常に短い期間ではあったが、長期入院患者の退院までの過程、看護師さんや検査技師さんといった他職種の見学、訪問診療、介護施設見学など本当にたくさんの研修をさせていただき、ここには書ききれないほどの非常に多くの経験を積むことが出来た。最後になりましたが、高北病院・大正診療所の病院関係者の方々には大変親切にさせていただき、非常に実りある研修をさせていただいたことに深く感謝致します。ありがとうございました。